



We love 海青

2025年3月12日

学校便り No.29

校長 森 慎也

唐津市鎮西町横竹838番地9

学校教育目標 **海青中を誇りに思う生徒の育成** ～優しさあふれる学校に～

■ 第12回 卒業証書授与式

3月7日（金）、唐津市教育委員会教育委員石山貴子様をはじめ、多数のご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席のもと、第12回卒業証書授与式を厳粛な雰囲気の中挙行することができました。卒業生一人一人が、担任の先生の呼名に大きな声で返事をし、これから歩いていく新しい道への決意を強く感じました。卒業生の皆さん、道に迷いそうになった時には、ここ海青中学校にいつでも立ち寄ってください。全職員、在校生一同、心から大歓迎します。保護者の皆様、お子様のご卒業、まことにめでとうございます。これまでの保護者の皆様の本校教育へのご理解とご協力に対しまして心より感謝申し上げます。本校の宝、地域の宝でもある卒業生の皆さんの更なるご成長とご活躍を心からお祈り申し上げます。



【校長式辞(抜粋)】

海青中学校を巣立っていく七十五名の三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、本日をもって、九年間の義務教育の課程を終えることとなります。

学校行事などを通して見ることができた三年生の皆さんの海青中を誇りに思う心や優しさあふれる言動には、在校生にとっても、憧れであり、良き指標となったと思います。

卒業の門出にあたり、昭和・平成の時代にプロレスラーや国会議員として活躍された「アントニオ猪木さん」が残された詩を送ります。

「道」

この道を行けばどうなるものか 危ぶむなかれ、危ぶめば道はなし 踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる 迷わず行けよ、行けばわかるさ

この先、みなさんが歩いていく道には、必ず歩きやすい道と険しい道の2つの道が待っています。どちらの道を選ぶか。

元プロ野球選手のイチローさんは、日本でも十分に活躍していたにもかかわらず、メジャーリーグという険しい道に挑戦しました。当時は、体格で劣るイチローさんは通用しないだろうという声が多く聞かれていました。しかし、その評判を見事に覆し、ギネス世界記録に認定されている日米通算4367安打やシーズン262安打のメジャー記録を樹立するなど数多くの素晴らしい記録を残し、今年、アジア人として初めて米国野球殿堂入りを果たしました。そんなイチローさんはこういうことを言われています。

壁というのは、できる人にしかやってこない。超えられる可能性がある人にしかやってこない。

だから、壁がある時はチャンスだと思っている。

この先、みなさんの目の前には、多くの困難や失敗、挫折が待っていることと思います。しかし、その時には、決してあきらめることなく、自分の力を信じて困難に立ち向かってください。そうすることで、思い描いている「夢」に一步一步近づくことができると思います。

■ 1, 2 年生も素晴らしい姿でした！

当然ですが、感動ある卒業式は、卒業生だけの頑張りでは成り立ちません。送る側の想いもあって、素晴らしい卒業式となります。そういう意味では、1, 2 年生の式へ参加する態度や歌声は卒業生の心に届くものとなりました。また、前日の準備や当日の片付け、3 年生への感謝の気持ちをもちながら取り組んでいました。3 年生が卒業した後も、これまで以上に海青中を良くしてくれること間違いのないようです。そして、1, 2 年生の来年度、再来年度の自身の卒業式も、きっと素晴らしい卒業式になると思います。ありがとう…。

■ 唐津地区中体連会報 バレーボール競技 牧山 心海さん

毎年、唐津地区中体連から会報が出されますが、会報には、各競技の中体連の結果や競技の代表者が作文を書き、それが掲載されます。バレーボール競技を代表して、本校の牧山心海さんが中体連を終えた思いなどについて書いてくれましたので紹介します。

「仲間」

唐津市立海青中学校 牧山 心海

私は小学生の頃から今までバレーボールに打ち込んできました。中学校に入って最初の頃は、ボールの重さ、ネットの高さが変わったことやローテーションなどの新しいルールが加わったことで戸惑うこともありました。けれど、仲間と助け合い、教え合うことで新しいルールにもすぐに慣れることができました。

そして、中学2年生の地区中体連が終わり、先輩方が引退されて自分たちの代になった時、私はキャプテンを任せられました。私たちの代は県ベスト4という大きな目標を立てましたが、そのプレッシャーや自分がまとめることができるのかという不安がありました。しかし、チームのみんなが「自分に任せる」、「ついて行きたい」と言ってくれ、いつの間にかその不安はなくなっていました。仲間と日々練習に励み、地区の大会では優勝を続け、3年生になってすぐの県中学生バレーボール男女選手権大会ではベスト4という目標を達成することができ、チーム全体がよい雰囲気になりました。

そんな中、私たちのチームにとって一大事がおきました。それは地区中体連シードをかけた大事な試合で初めて優勝を逃したことでした。中体連まで1ヶ月もないのに私はどうしたらいいのか、みんなをどう励まそうかと考え悩みました。でも、私はただ準優勝という結果に悔しがることしかできずにいました。しかし、「悩んでいても仕方がない」、「ここで自分が立ち止まってどうする」という気持ちが芽生えてきました。そして、チームのみんなに「地区中体連はリベンジして絶対優勝しよう!」と言と、みんな前向きに「優勝しよう!」と答えてくれました。

6月29日～30日の地区中体連ではチームメイトのけがもありましたが、選手、保護者、先生方、小学校時代の監督などチームみんなが一丸となり、1つのボールに3年間の思いを込めてプレーし、優勝することができました。県中体連では、後一步というところで負けてしまいベスト8という結果に終わりました。結果には満足できませんでしたが、最後に最高の思い出を作ることができ、中学校のバレーボールの幕が閉じました。

私がここまで成長でき、頑張れたのは大切な仲間がいたからです。この仲間でないと私は成長できませんでした。それだけ私にとって海青中のバレーボール部はかけがえのない大切な宝物です。そして今まで共に戦ってくれた保護者の皆様、指導者の皆様の応援があったからこそその結果です。本当にありがとうございました。この3年間、私のバレーボールはたくさんの仲間に支えられてきました。この経験をこれからも忘れず、辛いこと、苦しいことがあっても自分には仲間がいるという思いで夢に向かって頑張っていきたいと思います。